

# 会 議 記 録

政策企画局 市民参加・協働推進課

開催日	平成 23 年 7 月 25 日(月)	開催時刻	13 時 30 分から 15 時 30 分
会議名	上田中央地域協議会(平成 23 年度第 5 回)		
出席者	<p>浅井委員、伊藤委員、神林委員、久保田委員、栗内委員、小林委員、佐藤浩委員、佐藤智恵子委員、塩入委員、中村委員、松澤委員、宮坂委員、宮本委員、村上委員、安井委員、山田委員、渡邊委員</p> <p>(欠席委員) 飯島委員、河田委員、宮島委員、</p> <p>(事務局) 足立地域振興政策幹、林市民参加・協働推進課長補佐、堀内市民参加・協働推進課主査</p> <p>(説明者) 高橋観光課長、竜野商工課長補佐兼市街地商業活性化係長</p>		
会議次第	<p>1 開 会(足立地域振興政策幹)</p> <p>只今から第 5 回上田中央地域協議会を開催いたします。</p> <p>2 あいさつ(小林地域協議会長)</p> <p>改めまして皆さんこんにちは、ご苦労さまです。ちまたでは夏祭り真っ只中で、お集まり頂きました皆さんもそれぞれの立場で地域で担当されているかと思ひます。そんな中、大変ご苦労ですが本日も宜しくお願ひします。また、連日、暑かったり寒かったりおかしな天候で、自然界の変化を感じている昨今です。</p> <p>第 3 期の提言でそれぞれの分科会で取り組んでいますが、その辺の途中経過を、全体の確認をしたいので各リーダーの皆さんからお聞きします。今日は特に行政として答えてもらいたいという要望と皆さんから意見が出されておりました中心市街地の活性化政策、観光市街地の政策をお話頂きたいと思ひます。</p> <p>また、災害対応について委員の皆さんからご意見を頂いています。これは来月お話を頂こうと思ひます。高齢者施策については今後の見通し等福祉の人材等々の問題についても 10 月に行政から説明を受けようと思ひます。医療体制についても色々始まっていますが、これと信州医療センター等の関係についても 11 月以降に予定しています。更に産学官の連携についても説明して頂く予定です。また、生ゴミの堆肥化の問題も廃棄物対策課にも来年早々お話を頂きます。このように段取りがあるのでとりあえず、今現在、それぞれの分科会で検討して頂いている事は上田市民にとっても大変身近な問題ですので前向きに進</p>		

めて頂ますよう宜しくお願いします。スタートにあたりご挨拶とさせていただきます。

### 3 協議事項

会長： はじめに中心市街地活性化施策について商工課からお願いします。

商工課： 日頃から、中心市街地の活性化に対しご尽力いただき、心より敬意を表します。

また、私どもが担当させていただいております市街地商業の活性化の課題は、とりもなおさず皆様の地域課題であり、本日こうした機会をいただきましたことは、大変有難いことであり、私も勉強してまいりたいと思います。

まず、頂きました、テーマに入る前に、お手元に「上田市中心市街地活性化基本計画」とそのダイジェスト版を申し上げてあります。継続の委員さんはすでにお持ちかと思えます。

この基本計画は、平成 22 年 3 月に内閣総理大臣の認定を受けております。

それは、ここに登載された事業の実施により中心市街地の活性化を図ることを国と約束し、そのため国は必要な有利な補助金や交付金を交付するというものであり、全国では 107 の計画が認定されています。要するに、国は「選択と集中」で地域を限定し支援をしようというものです。

しかし、それだけにこの国の進行管理も厳しく、歩行者通行量や居住人口といった数値目標の達成が強く求められます。

先に、ダイジェスト版をご覧ください。

計画期間は平成 22 年 3 月から平成 27 年 3 月までの 5 ヶ年です。

計画区域は 193ha。これは国から大分縮小を求められた結果です。

テーマは、市民の代表を含んだ計画検討委員会で策定され、400 年の歴史を超えた「城下町ルネッサンス」となりました。

また、将来像は、住んで良し、訪れて良しの「生活快適都市・交流快適都市」です。

中を開けていただき、事業が示されています。ここでは 58 ですが、今年 3 月に 4 つ増え、62 になっています。これらの事業の確実な実施により、市街地の活性化、具体的には次のページの、数値目標（居住人口、歩行者通行量、上田城跡公園周辺施設利用者数の増加）を達成させるという言う計画です。下段は真田家の家紋「六文銭」にちなんで、6 つの拠点を示してございます。

そこで、本日は、この基本計画に基づいて、ご説明させていただきます。

1 . J T 開発地を新たに中心市街地に含め、拠点と位置付けたことの方針については、基本計画 85 ページ。

**中心市街地の活性化に係る各種検討組織が設置されました。**

イトーヨーカ堂の出店にかかる関係者連絡会議

日本たばこ産業株式会社上田工場跡地における公共的整備内容に関する研究会  
などです。

#### **J T 開発地に関する基本的な考え方やスタンス**

この土地につきましては、中心市街地の一角に位置する立地特性にすぐれた一団の土地として、上田市の将来を見据え、まちづくりの中できちんとした役割を持たせ、中心市街地、ひいては市全体の活性化につながる視点に立って利活用を図っていくべきであるということです。

また、利活用の基本的な枠組み、これにつきましては、土地の所有主体は民間に置いたまま、まちづくりや公共的役割も民間に担っていただき、協働により活力ある市街地の一角を形成するということであり、その中で J T が主体となり、多くの地権者とともに土地区画整理事業が計画され、上田市のまちづくりに対する多大な地域貢献の一つとして示されたと感じております。

市としても、交流・文化施設の整備、また市民公園・広場の整備という公共利用の方針を表明してまいりました。

広大な芝生広場が広がり、またウォーキングとか、あるいはスポーツ等にも汗を流せるような人たちが訪れ、家族連れなどでにぎわい、都市の中にも自然がそのまま残り、水はね、緑輝き、晴れ渡る空が望める空間として、風格が漂う新上田市のシンボルとなるような施設整備を目指しております。

開発計画全体といたしましては、商業、住宅、公共施設等を取り入れたバランスのよい、そして厚みを持った市街地の形成が期待しております。

また、改正まちづくり 3 法で示された集約型のまちづくり（コンパクトシティ）にも合致した求心力、拠点性の高い市街地形成を可能にするものであり、中心市街地の定住人口の増加、市民の多様な消費ニーズにこたえ、選択肢を広げる商業集積と魅力づくりにも結びつく可能性を持っており、と考えております。

まちづくりが、民・官協働によって、法体系に従って適切な対応の中で進められることが何よりも大切であると考えております。

地方自治体を取り巻く情勢がより一層厳しくなる中、常に未来を見据えて輝く上田、美しい上田へ向けた創造と挑戦に取組み、地域間競争をリードしていかなければなりません。J T 開発地の利活用につきましては、これまで経験したことのないような、ある意味ではチャンスとしてとらえ、勇気と元気を持って、民・官協働を進めていくべきであると考えております。

この中活計画が、上田市の将来のまちづくりへの大きな一歩となるよう、民間の力を十分発揮していただく中で、今後を着実に推進してまいりたい、このような考えの中で、J T 開発地を「文化と交流の新拠点」と位置付けております。

## 2. アリオオープン後の商店街への影響

影響にはプラス・マイナスがあると思います。

また、その把握は、3/11・3/12の東日本大震災及び長野県北部地震等もあり、様々な要因が重なるため、「これがアリオ上田による影響」とはっきり申し上げられませんが、一つの指標として、アリオ上田開店後約1月後に、歩行者通行量調査を行いました。

これは、毎年3月行っている調査と比較するためであります。

その結果がレジュメに記載してあります。

これだけ見ると、アリオに近い天神、駅前及び松尾町は人通りが増え、アリオから離れた原町と海野町は減っていると見えますが、確かに天神及び駅前はそのプラス効果だと思えます。

しかし、海野町はこの間に、たまたま一気に7店もの閉店・移転があり、特にそのお店にしかないケーキ、パン、輸入雑貨などを扱っていた「ハルタ」や自然食品の「アニュー」といったコアな顧客を抱えていた店舗の移転・閉店の影響も大きいと思われる。

一方、松尾町は1店移転、4店開店、特に国の補助金も活用した「松尾町フードサロン」の開店という商店街としての努力がありました。

特に、商店街の方自身も「アリオ上田の影響は感じていない」とおっしゃっていました。

むしろ通行量の増加には、「商店及び商店街の力」を発揮し、商店及び地域のオリジナル性を活かし、持続的な努力が大切ということであり、コアな顧客を抱える店舗の移転・出店は商店街にとって重要な要素であること。同様にコアな客を惹きつける店舗の誘致を戦略的に行うこと、そのために「テナント出店支援金」などを活用して欲しいと、この調査結果を見て強く感じました。

次に、今後プラスに影響させる数字として、

### アリオ上田が独自に5月に調査した結果

来店者の内訳としまして、平日は市内57%、市外31%(その他12%)の割合で、市外の中でも長野市からは8%を占めている。また、休日では市内が38%に対し市外41%(その他21%)を占め、このうち長野市からは17%も占めている。

この数字は、今後、今までに上田に来ていなかった顧客をどのようにすれば商店街がシェアできるか考えなければ、極端な言い方をすれば「もったいない」ということだと思います。

## 3. イトーヨーカ堂駅前店閉鎖の影響と跡地利用に対する市の基本姿勢

このことについて、駅前の商店の方にかがったお話しでは、「旧イトーヨーカ堂上

田店閉店の影響はほとんどない」とのことでした。

また当該地活用につきましては、民有地でありますので、上田市として関わることは困難だと考えております。

しかし、上田市の玄関であり顔である駅前であることから、今後も十分注視してまいりたいと思います。

#### 4．市街地における交流や回遊性に係る施策

##### (1) 中心商店街の積極的な取組みを支援するとともに大型店とも連携

大型店との連携については、松尾町商店街振興組合では、イオンやアリオ等大型店等でも使える電子マネーの端末機を商店街の店舗に配置し、大型店と共催でポイントラリーなどのイベントを開催し、顧客の取り込みを図る事業に取り組んでおります。

天神商店街ではアリオ上田に商店街加入を促し、アリオへの誘導看板を設置し、一方、アリオでは広告チラシに天神商店街を通るルート示すことで、同じ商店街の会員として商店街への歩行者の誘導を図っております。

##### (2) 街の魅力を発信し、まち中回遊を促す取組み

上田城・池波正太郎真田太平記館等を巡る「まち中散策コース」の設定や「信州上田うまいもんマップ」の作成配布のほか、「蚕都上田プロジェクト」及び「上田のすてき会」といった民間の手によって、蚕都に係る施設を巡るウォーキングマップづくりや街並み散策など、中心市街地の観光資源を有効に活用した街なか回遊を図ります。秋にも「信州上田うまいもんマップ」を紅葉まつりにも作成し配布することで食を通じた街なか回遊を図ります。

アリオ上田2階に設置された「上田市インフォメーションコーナー」を有効に活用し、商店街のイベント情報等をきめ細かく配置し、商店街の魅力を発信し、商店街に関心を持って来ていただけるよう、商店街に働きかけを行っております。

#### 5．「城下町」を活性化につなげる取組

(1) 中心市街地活性化基本計画のテーマ「400年の歴史を超えた城下町ルネッサンス」であり、中活計画は、登載事業（現在62事業）の確実な実施により市街地活性化を図ろうとするものです。

(2) 中心商店街の積極的な取組みを支援するとともに大型店とも連携し、街の魅力を発信します。

商店街支援としては、これまでも

イベント活動に対する補助

商店街に設置するコミュニティー施設への家賃補助

4 商店街振興組合で組織された上田商業21世紀会への補助等活動支援

テナント出店支援事業補助

を行ってまいりましたが、最近では、松尾町や海野町商店街のように、商店街が直接、国や県の補助金を申請し財源確保を図るという取り組みも増えてまいりました。市としては、今後も補助金制度の情報提供や申請書作成の支援並びに商店街イベントの周知等支援も行ない、商店街の自主的主体的な取り組みを促してまいります。

以上、ありがとうございました。

会長： 行政側でもまとめてご報告頂いた中心市街地活性化に関する取り組みは進められているのは事実であります。理解してまいりたい。あまりにもテーマが大きすぎて難しいと思う。中央地域協議会としては3分科会に分かれてそれぞれテーマごとに検討していていずれも中心市街地活性化に繋がる話。改めて再認識して頂いて今後もお話頂きたいと思う。とりあえず説明は終わりにしたいと思う。続けて、観光問題、これについて観光課長からお話をお聞きしたいと思う。宜しく願います。

観光課： 皆さんこんにちは。今週はいよいよ上田わっしょいで40回目を迎えます。新聞等でも出ていますが40回の節目なので最初と最後に花火を打ち上げる計画をしています。そして、8月6日には花火大会が行われ、今回の地震で栄村の子供たち、福島等から避難されているご家族の皆さんを招待する予定です。

次に今回の質問、観光ビジョン、観光マップ、新幹線の沿線問題と頂いていますが、本題に入る前に観光の状況についてお話をさせていただきます。上田に訪れる観光客、昨年の実績は年間486万人が来られています。上田城跡を訪れた方が156万人。昨年度は順調に来ていて数字も相当伸びていると思っていましたが、震災の影響もあり、直後極端に落ちました。しかしながら前年対比では少し増えた結果になり、21年度に比べては約2%増え486万人にとどまりました。やはり震災以降の落ち込みは相当なものがありました。その内、上田宿泊数は163万人で、菅平、鹿教湯、別所、上田市内のホテルの合計です。約1日1万6千人が上田に合宿も含め宿泊している計算になります。この件については、前年比の横ばいで、21・22年度はほぼ同じ位の数字でした。震災の影響で3月については3割減。4・5月は15%ぐらい減の数字が続きましたが、5月の連休で団体客、個人のお客が増えてきて観光会館のお土産の売り上げだけを見ますと、昨年より先月から上回った状況になってきました。夏、秋に向けて戻ってくると期待しているところです。千本桜祭、夏祭りなどで元気を上田から発信していくために、今後も開催していきたいと考えています。

それでは事前にいただいたテーマの説明に入ります。

資料、信州上田観光ビジョンで、この関係については簡単に説明しますと、き

っかけは平成 18 年の合併に伴い地域が広がった中、どのような観光をしたら良いのかという主旨で 18・19 年に考え、平成 20 年度に完成したものです。最終的な目標が、都会人の第二の故郷を目指すという事で後ほどご覧頂きたいと思います。

観光ビジョンは冊子になっていますが、これはあくまでも計画で、これを具体化するものが別の資料、信州上田六文銭プロジェクトです。これに基づいて、観光課で毎年考えています。今現在やっている六文銭プロジェクト計画について説明します。6 つの施策を展開していきまして、実施計画における事業の推進項目の中にジャパンフィルムコミッション総会と書いてありますが、これは映画・テレビの撮影の補助的なもの、フィルムコミッション事業を観光課で支援をしています。

全国で約 100 名位の関係者の方が来られる総会が今年上田で開催される予定です。これについての取組を進めています。次に信州上田真田検定を商工会議所で実施に向けて進めています。最終的な目標が真田幸村大阪城入城 400 周年を目指した取組みの NHK 大河ドラマ 2014 年「真田幸村公」を実現しようと署名活動の取組をしています。また、誘客イベントの推進、インバウンドへの取組などを進めています。先ほどの上田に宿泊される観光客年間 163 万人のうち外国人の方は 7000 人です。年間、日本国内には外国人観光客が 800 万人来られています。長野県内は 24.5 万人、その内の上田市に訪れるのは 7000 人です。本当に少ないと思います。観光課としては国内のお客様だけではなく、海外、特に東アジアの皆さんのお客様を増やしたいと考えています。現在、長野大学と信大の繊維学部留学されている留学生の皆さんと接点を持ち、ここから絆を広げていきたいと思っています。今週末、韓国の取材が来ますが韓国の TV の 1 時間番組のようで、祇園祭についても取材をして流すようです。また、本日は台湾の学生が長野大学との交流で 39 名来ています。これから東アジアのお客様をいかにお迎えするかでこの取組が非常に大切になってきます。上田の旬を活かした事業では戦国 BASARA というテレビゲームのキャラクターを使ったお土産の商品化を考えています。それから広域連携による事業の推進で、現在、真田つながりの連携をしています。また、北陸新幹線沿線に向けた沿線自治体との連携。こちらも沿線の自治体・団体との連携を推進しています。さらに、市民力の積極的活用、市民主体の組織体制充実の項目について行政が主導で観光事業を進めてきましたが、これからは市民の皆さんに入って頂き市民の皆さんが主体となり、最終的にはお祭りの主体となって頂ける取組をしています。後、受入体制基盤の整備を進めている。現市長が合併する前から千本桜祭を、まず上田から知名度を上げようという事でスタートしましたが、知名度はようやく浸透してきました。今、上田市が考えている事は観光関係事業者の皆さんに儲けて頂ける仕組みづくりです。そのきっかけとして、全て最終的には企業が潤うような展開をしていく取組をしています。観光ビジョンに

ついでの説明は以上です。

次に、観光マップについてですが、今回、沢山ある中で代表的な物だけをお持ちしました。基本的に観光マップは誰が作ったのか。これは上田市か、長野県か、または地元の温泉観光協会が作ったのかで分かります。もう一つは内容的な事で上田市全体の情報が網羅している物、市内中心部だけの物、観光地別の物、そば・花・ロケ地・目的別の物、広域的に周辺の市町村と連携して作成した物等がそれぞれあります。お客様の目的により欲しいパンフレットは違いますが、こんなに必要なのかと言われる位、ニーズがそれだけあるということで結果的に多くなってしまっています。この他にも当然、外国からのお客様用に四カ国語等のパンフレットもあります。また、お客様から事前にお電話頂いた場合、パンフレットを用意しお届けするサービスを行なっています。このサービスの利用数、お問い合わせ等が昨年度は 1200 件ありました。次に北陸新幹線の沿線を見据えた計画として、資料はありませんが状況について説明したいと思います。平成 27 年 3 月、あと 4 年で金沢まで延伸する予定です。先月、金沢 100 万石祭りに行きましたが高架橋が出来てきていて、近々こちらまで来る実感があります。現在、東京 金沢間が 3 時間 43 分かかりますが新幹線が開通すると 2 時間 22 分になり、1 時間 10 分短縮されます。北陸の皆さんは首都圏への足が短縮され、上田には金沢から約 1 時間で近くなります。しかし、開通によりデメリットもありまして、上田駅が通過駅になってしまうという事があります。上下線併せて 69 本東京に向かう長野新幹線がありますが、現在、上下線で上田に停まらないのが 2 本くらいあります。当然、東京 金沢間であれば上田のみならず立ち寄らない駅も出てきますし、東京 金沢間が近くなるので上田に泊まらないで皆北陸に行ってしまう心配もあります。また、長野県は海がないので、県民・市民の皆さんも行ってしまいう心配もあります。対策として、現在取り組んでいる内容は、北陸の皆さんにも信州へ来て頂くように一昨年からは金沢で観光 PR 活動を上田市独自で行っています。

上田駅の観光案内所、これは上田市だけが運営しているのではなく、9 市町村がお金を出し合い今の上田観光案内所の運営をしている。その 9 市町村が、今年は金沢、富山に行き PR 活動をする予定です。また、長野県内の沿線の自治体が集まり昨年からは県が中心となって対策会議を行なっています。一番は金沢よりも長野県全体が魅力を持つ商品開発、新たな魅力づくりが必要ではないかと思われ施策を展開しています。

それから個人的には、東京、金沢間の新幹線料金が高いと思います。上田駅で団体客が乗り、バスで北陸や中南信に行くツアーが沢山あります。これは何故かといいますと、上田は東京から 200 キロ圏内、長野市だと 200 キロを超えるので料金が片道 1500 円違う。そうなりますと上田から長野まで行くのでは往復 3000 円になります。この 3000 円は旅行パックでは非常に大きく、料金の問題含めて上



田はこれからも変わらないと思っています。この事を含めて改善する取り組みや上田周辺の地域と行政官の連携、新しい商品開発をしていく事も大事だと思っている。説明については以上です。

会長： ありがとうございます。皆さんも認識して頂いたと思います。今日は意見を集約しないが、市に取り上げて欲しい事を後日皆さんにお聞きしたい。また、パンフレットも感心した。だが、一つ気になるのは観光課が一生懸命でも市民の皆さんが、観光客に尋ねられた時にこれだけのパンフレットの内容説明が出来なくては困る。この事も協議会として考えていかなければいけないと私は感じた。観光客が2・3度来て頂くためには市民の受け答えにも大きく掛かってくると思う。それと今日説明された事は商店街連合会にご案内頂いているのか。

商工課： イベントの関係については承知頂いているし、商店街が主体的に行なっているイベントもある。

会長： 商店街連合会の会長さんも委員さんにいるので、もう少し市民レベルまでに徹底して頂きたい。ありがとうございます。では次に事務局からお願いします。

事務局： 今日は各分科会で進めておられる課題経過をお話して頂きます。第一分科会からお願いします。

委員： 第一分科会はトイレの整備について、今までの話合いの経過では基本的にトイレもまちづくりの視点から整備していく事が大事と考える。市街地の中のトイレとは街中の一部となるような公衆トイレを整備し、それにより、快適な生活環境を実現し、市民や観光客が安心して利用できるような公衆トイレ整備を進めていきたいというものです。そして、トイレへの親しさ、安全、清潔、優しさ、維持管理のしやすさ等、協議会の中でさらに進めていきます。まず、既設のトイレを見る事が大事なので、実際に見てから色々検討していきたいと考えていて、8月4日に市内の既設のトイレを見る。分科会としての評価表を作り、現状のトイレの評価をしたいと考えている。以上です。

委員： 第二分科会は歴史的資源の魅力ある地域づくりや観光資源への活用策として、それぞれに意見を述べてきた。当然のことながら、歴史的資源となると、文化祭、パンフレット、上田に関連する偉人の話、上田中心地域であるまちづくりの観点の中で今後、回遊性を生み出していくにはどのようにするのか、上田市の景観もどうするのか、総合的に協議している。以上です。

委員： 第三分科会は歴史的町名の保存と活用で、このテーマに取り組み出したのは良いが、この問題は非常に深く難しくどのように切り口をもっていけば良いのかなか決まらない。資料は沢山頂いたがあまりにどこにどんな歴史的地名があるのか時代によって違っている。どこに焦点を置けば良いのかが難しい。それから、住居表示を全部見直す事も考えたが、これは過去においても費用も掛かり断念した経過もある。特に鍛冶町は是非、この町名に戻したいという住民の動きもあるようだ。残り期間、半年の中でこの壮大な課題についてどこまでできるのかが一番難しい所。時間的なスケジュールと中身の調整を検討している最中だが、調査としてはアンケート調査をする案も出ている。以上です。

会長： ありがとうございます。第三分科会のテーマは、過去も何回か議会でこれは審議されている事柄なのだが、中央協議会という組織を預かり改めて市民団体としても意見をまとめていく意義があると思うので、是非提言という形でまとめて頂きたい。ただし、住居表示から根本的に変えていくのは恐らく国の了解が得られないと思う。住民も行政も納得する答えを出さないといけないと思う。ところで、なぜ旧地名ではなく旧町名なのか、市民ですら旧町名・新町名も知らない人もいる。その点からも切り口を変えてみる必要もあると私は思う。今のところ 3 分科会それぞれ走り出した。上田市としても大事な事なので前向きに進めて頂きご協力のほどお願いします。それでは事務局の方でお願いします。

4 次回会議の開催と日程について

第 6 回中央地域協議会 平成 23 年 8 月 24 日（水）

5 閉 会